

水と微生物がいざなう持続性の**本質**

講演会

地球環境の持続性が問われています。

人間社会が地球環境の持続性を歪めている場面も少なくありません。今回の講演は広瀬先生が「持続する社会のあり方」を科学的に説明され、奈良先生が「生ごみから水素ガスを取り出し発電できること」をお話しされます。そして私たちが毎日の生活の中で取り組むべき課題と解決策を示して頂きます。その解決策に欠かせないのが微生物です。微生物の中でも世界中で活用されているEMに期待が高まっています・・・。

平成 28 年 **5** 月 **14** 日 (土) 時間：【受付】 13 時 【開演】 14 時

場所：ウィルあいち・大会議室 入場料：500 円 (資料代込)

アクセス：地下鉄「市役所」駅 2 番出口より東へ徒歩約 10 分 (裏面に地図掲載)



演題：持続性の科学

広瀬立成氏

首都大学東京名誉教授



演題：“Back to the future”

我が家の車は生ごみで走る！？

奈良松範氏

諏訪東京理科大学教授

主催：NPO 法人 EM あいち 後援：株式会社 EM 生活・NPO 法人 U-ネット愛知支部

NPO 法人 EM あいち は堀川 EM 浄化活動で 3 年連続「愛知環境賞」にエントリーをしています。2016 年受賞には至りませんでした。主催の愛知県より「堀川の浄化が徐々に進んでいる現状」に高い評価を頂きました。また、ドキュメンタリー映画「蘇生」(白鳥哲監督) officetetsushiratori.jp/sosei/ のワンシーンに堀川 EM 浄化活動の様子が取り上げられています。映画は国内・海外で上映中で名古屋の「堀川」が世界に発信されています。



代表者お名前 :	ご参加人数 :	お電話番号 :
	人	
ご住所 :		

【講演者プロフィール】

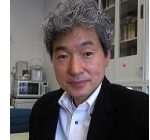
広瀬立成氏 (首都大学東京名誉教授)

1938年、愛知県生まれ。
 東京工業大学大学院博士課程物理学修了。東京大学原子核研究所、ハイデルベルク大学を経て東京都立大学(現、首都大学東京)に移り、同大学理学研究科教授。欧州原子核研究所(セルン)及びブルックヘブン国立研究所との国際共同研究、高エネルギー加速器研究機構におけるトリスタン実験などによる素粒子物理学の実験的研究を行った。2002年度より東京都立大学名誉教授。2002~2009年、早稲田大学・理工学術院総合研究所教授。自宅の裏庭でEM生ごみリサイクルを実践し「脱焼却・ごみゼロネットワーク・日本」設立をめざし活動中。乗馬1級、空手2段。著書は「よくわかるヒッグス粒子」(ナツメ社)「量子力学」「相対性理論」(朝日新聞出版)ほか



奈良松範氏 (諏訪東京理科大学教授)

汚染されてしまった環境の浄化技術
 新しい環境空間の創造、環境に配慮したものづくりのためのデザイン、
 医用工学、組織の統合マネジメント(品質、環境、労働安全、情報、CSR等)が専門分野。信濃毎日新聞の一面記事(2015年元旦付)に掲載され期待が高まる「生ごみなどに有用微生物群の一つである光合成細菌を使い水素をつくり、走行時に水しか出さない燃料電池車に使うシステム」の研究を行っている。また、諏訪湖のEM浄化活動を行うNPO法人しなとへの顧問を勤める。



【地図】 ウィルあいち：名古屋市東区上豎杉町1番地

地下鉄「市役所」駅2番出口より東へ徒歩約10分

- 名鉄瀬戸線「東大手」駅、南へ徒歩約8分
- 基幹バス「市役所」下車、東へ徒歩約10分
- 市バス幹名駅1「市政資料館南」下車、北へ徒歩約5分

